

【災歯】各種書式の作成及び更新情報

- ※ 【災歯 2-1】施設・避難所等 歯科口腔保健 ラピッドアセスメントシート（集団・迅速）については別ファイル

【災歯 3-1】歯科保健医療 ニーズ調査 質問票（個別・個人）

- ◆ 2025 年 12 月、【災歯 2-1】歯科口腔保健 ラピッドアセスメントシート（集団迅速）を含め、災害時の歯科の書式全体を日本歯科医師会統一版として整理したことに伴い新規に作成し、Ver1.0 とした

【災歯 3-2】歯科保健医療 ニーズ調査・対応 実施票（個別・個人）

- ◆ 日本歯科衛生士会で制定されていた用紙であったが、令和 6 年能登半島地震後の対応にて個別口腔ケア・歯科診療記録として活用、連携や引継ぎに用いられた。この際の課題を踏まえて、全体の項目を規定の項目になるべくあわせ、選択肢も整理しなおして、Ver2.0 とした
- ◆ 2025 年 12 月、【災歯 2-1】歯科口腔保健 ラピッドアセスメントシート（集団迅速）を含め、災害時の歯科の書式全体を日本歯科医師会統一版として整理したことに伴い、令和 6 年能登半島地震後の対応にて個別歯科診療記録としても活用したことを鑑み診療記録としての要件を満たすように項目を追加し、Ver2.1 とした

【災害 3-3, 3-4】歯科保健医療 ニーズ調査・啓発・指導 実施票・総括票（個別・複数）

- ◆ 2018 年の平成 30 年 7 月豪雨（西日本豪雨）後の避難所の個別アセスメントにおいて必要となりその場で手書きで作成、その後書式として活用
- ◆ 2018 年 10 月 7 日「統一書式・方針に関する検討会」にて、「個別複数アセスメント票」として様式提案
- ◆ 2018 年 12 月、日本歯科衛生士会「災害支援活動歯科衛生士実践マニュアル改訂版」に「歯科保健医療ニーズ調査・保健指導実施法（個別・複数）」として掲載（Ver1.0）
- ◆ 2020 年 2 月、縦 10 列の集計がしやすいように、配置変更
- ◆ 2023 年 2 月、年齢カテゴリーに 75 才以上を設定、あわせて、18 才未満であるべきところが 18 才以下となっている部分を修正
- ◆ 2024 年 1 月の能登半島地震活動後の JDAT 活動に活用され、この際に項目に「歯科治療の必要性」を追加、タイトルに「啓発」を追記して「歯科保健医療 ニーズ調査・啓発・指導（個別・複数）」とし、実施票・総括票ともに 2024 年 2 月に日本歯科医師会統一版となった（Ver2.0）あわせて、「名前」「歯科治療の確保の問題」「詳細記載欄」の注意書きを追記した

- ◆ 2025 年 12 月、【災歯 2-1】歯科口腔保健 ラピッドアセスメントシート（集団迅速）を含め、災害時の歯科の書式全体を日本歯科医師会統一版として整理したことに伴い Ver2.1 とした

【災歯 4-1, 4-2】歯科保健医療救護 記録票・報告書（災害時歯科共通対応記録）

- ◆ 平成 28 年熊本地震時に設置された歯科救護所の記録の集計作業を経て、救護記録の書式の必要性が認識された
- ◆ 2017 年 5 月の第 66 回日本口腔衛生学会総会（山形）のミニシンポジウム 5 「災害時の歯科保健医療体制をめぐって～平成 28 年熊本地震等を受けて～」において、救護記録のあるべき要件を提示
 - * 特定の項目の数が多すぎると全体が評価しにくくなってしまうので、いくつかの細項目と分断する
 - ◇ 「口腔内衛生状態チェック・口腔ケア」の項目を細分化
 - ◇ 医療支援を含む時期から保健活動のみとなった後まで、多組織で同じ項目での記録をとり続けることにより、経時的な評価が可能となる
 - * 書きにくい、どの項目かわからない、となると、「その他」が増える傾向があると考えられる
 - ◇ 書き手による判断の違いにより「その他」を多くしないよう、各項目ごとに具体的な内容を明記
 - * 延べ数しかない则需要が見えない
 - ◇ %評価ができるように、実施数のみではなく実人数を追加
 - * 項目・日計表の全国統一
- ◆ 2017. 06. 12～2017. 07. 15 日本災害時公衆衛生歯科研究会のホームページに報告書案を掲載し ML にて意見募集、同時に災害歯科保健医療連絡協議会関係者に個別に連絡して意見を求めた
- ◆ 2017 年 7 月 16 日～7 月 31 日、寄せられた意見を踏まえた報告書案（Ver1.2）として再度関係者に確認連絡
- ◆ 2017 年 8 月 1 日、報告書（Ver1.3）として公開
- ◆ 2017 年 8 月 25 日、報告書にあわせた記録票（Ver1.0）を公開
- ◆ 2018 年 12 月、日本歯科衛生士会「災害支援活動歯科衛生士実践マニュアル改訂版」に記録票・報告書ともに掲載
- ◆ 2021 年 4 月、「施設・避難所等 歯科口腔保健 ラピッドアセスメント票（集団・迅速）」の名称変更にあわせた報告書の修正（Ver1.3）
- ◆ 2024 年 1 月の能登半島地震活動後の JDAT 活動の報告用紙として採用され、日本歯科医師会統一版となり、記録票・報告書ともに追記（Ver2.0）
- ◆ 2024 年 3 月、JDAT 標準要項（第 2 版）に向けた改訂の検討の中での指摘を受け、「紹介」のその他の項目を記録票・報告書ともに整理した（Ver2.1）
- ◆ 2025 年 12 月、【災歯 2-1】歯科口腔保健 ラピッドアセスメントシート（集団迅速）を含め、災害時の歯科の書式全体を日本歯科医師会統一版として整理したことに伴い Ver2.2 とし、

【災歯 4-1】 歯科保健医療救護 個別記録票／【災歯 4-2】 歯科保健医療救護 報告書の表現とした

- ◆ 2026 年 8 月、【災歯 4-2】 歯科保健医療救護 報告書の記載は、1 日に何か所かの避難所を回る場合は「チーム名、実施者名」を日に何度も記載するのが大変なため、同日の複数枚目の場合は、班員名（氏名・職種）は名字のみ、略称のみなどでも特定できれば可とした案をつくりました。また、報告者名の「所属」「連絡先」も明確となるように「チーム名」「携帯連絡先」としました。

災害時歯科保健医療支援アクションカード

- ◆ 2015 年 2 月、避難所および高齢者施設における行動概要を示すものとして北原らにより作成された。(ver1.0)
- ◆ 2021 年 10 月、感染症を含む体調管理などの項目を追加し、リーダー用とメンバー用とを別にするることによって役割による行動の違いを明確化した。(ver2.0)
- ◆ 2026 年 8 月、段階的に変化してきた用語（保健医療福祉調整地域会議など）の改定とともに表現等を見なおした。(ver2.1)

歯科相談・対応 希望送り票（保健医療 → 歯科）

- ◆ 2024 年 1 月の能登半島地震活動後の JDAT 活動において、穴水町保健医療福祉調整本部より要望され、JDAT 研修会関係者にて相談し作成した。(Ver1.0)

歯科治療必要者 送り票（歯科チーム → 歯科診療所）

- ◆ 2024 年 1 月の能登半島地震活動後の輪島市における JDAT 活動において必要とされて提示し、地元歯科医師と輪島市保健医療福祉調整本部より作成された送り票が活用された。
- ◆ 2024 年 6 月、許諾のもとで普遍化し「歯科治療必要者 送り票」とした。(ver1.0)
- ◆ 2026 年 8 月、書類だけで送りの内容が明確となるよう、「詳細記載欄」を、「状態や状況」と「歯科診療所への依頼内容」とに分けて明記し、また、「受診予定・有症時受診・往診依頼」と依頼内となるようにした。また、「避難場所又は自宅の場所（住所）」が遠隔の二次避難先だけの情報となったため、「いま生活している場所（避難所や自宅など）」を聞くようにした。(Ver2.0)

「J D A T の活動概要」

- ◆ 2024 年 1 月の能登半島地震活動後の JDAT 活動において必要となり、JDAT 研修会関係者にて相談し作成した (Ver1.0)
- ◆ 2024 年 3 月、JDAT 標準要項 (第 2 版) に向けた改訂の検討の中で要望があり、症状の例として「食事が食べにくい、むせる」を追加した (Ver1.2)